

[特集]

# 「学力」から「期待と意欲」へ

～高大接続にもう一つの「橋」を架ける～

2021年度から、センター試験に替えて達成度テストを導入する方向で、入試改革の検討がなされている。

そこでの議論の本質は、教科学力を単一の指標とする入試に対する問題提起である。

本特集では、高校と大学での学びや活動が

その後の社会生活にどうつながり、生かされるのかという視点から、

高大接続のあり方を今一度問い直す。

教科学力に加え、学び続けることに対する期待と意欲を高校と大学が連携して育て、

これらを従来の「学力」と合わせて評価するという新しい接続のあり方を探る。

社会が求める人材像を起点に、  
教科学力以外の力も含めて多面的に評価する入試へ。  
入試改革にとどまらない接続改革を

→ P.4 ベネッセコーポレーション 山下仁司氏

## 高校の期待

高校は自らの教育の質を保証し、  
大学は入試で期待と意欲、  
さまざまな活動の評価を  
→ P.12 国立音楽大学  
(全国高等学校長協会前会長)  
及川良一氏

高大とも、  
「教科学力を中心に据え、  
関心や意欲、  
高校での活動を  
多面的に評価する入試」  
を支持  
→ P.8 調査データ

## 大学の意識・取り組み

高校で培われた学びの意欲を  
入試で評価し、意欲に応える教育を行う  
→ P.14 筑波大学 大谷奨氏

「社会で生かせる」力が  
専門的学びを通して  
どう身に付くかを示し、期待を高める  
→ P.17 専修大学 嶋根克己氏

「大学教育を受けるための準備度」を  
確認するプロセスを通し、  
受験生を成長させるAO入試を实践  
→ P.20 京都工芸繊維大学 山本以和子氏